

令和7年度

博士前期課程

1-2月実施（一般入学試験）

人文学学位プログラム 歴史・人類学サブプログラム

区分	出題意図または解答例
専門科目 問題Ⅰ 〔1〕【英語】	<p>（1）歴史学・人類学に関する英語文献を的確に読解したうえで、論点に関わる主要な語彙の理解の正確性を問う。</p> <p>（2）上記文献で論じられる主要な論点を整理したうえで、論理的な文章として表現する能力を問う。</p>
〔2〕【日本語】	<p>（一）歴史学・人類学の研究手法に関する日本語文献を的確に読解し、指定された論点の要旨を論理的に説明する能力を問う。</p> <p>（二）上記文献の内容を踏まえて、指定された論点について自身の考えを論理的な文章として表現する能力を問う。</p>
問題Ⅱ 〔1〕【日本史学】	<p>（一）日本の歴史編纂事業がどのように行われてきたかを問う問題である。日本史全体の流れや時代ごとの論点について、一定水準以上の理解をしていることが求められる。</p> <p>（二）各人が専攻しようとする時代の史料を正確に翻刻でき、かつ、内容についても理解できるかどうかを問う問題である。</p> <p>（ア）は、幕末期の下野国における代官所の触書である。（1）は基本史料の特質を、（2）はくずし字の読解能力を問うものとなっている。また、（3）は近世期の基本用語についての理解度を問うもので、（4）は、幕末期の地域社会の動向を史料から読み解ける能力を測るものとなっている。いずれの設問も、大学院で日本史学を学ぶ際に必要な史料から議論を組み立てていく基本的能力と関わっている。</p> <p>（イ）は、国立公文書館が所蔵する明治初期の太政官・内閣の記録部局と各省の記録部局間の往復文書からの出題で、Aは太政官から外務省に出された依頼文の控で、Bは宮内省から太政官に出された問合せの原本である。（1）はくずし字の読解・翻刻の力を、（2）は翻刻した文書の理解度を問う問題である。（3）は史料用語に関する知識を問うもので、（4）は大久保利通と木戸孝允を軸に、史料作成当時の政治状況について解説させるものである。いずれの設問も、大学院で日本史学を学ぶ際に必要な史料から議論を組み</p>

	<p>立てていく基本的能力と関わっている。</p>
〔２〕【東洋史学】	<p>（一）東洋史学の研究上の用語や概念に対する理解の正確性を幅広く問う。</p> <p>（二）①東洋史学に関する日本語の専門的な文献を的確に読解したうえで、指定された論点について論理的に説明する能力を問う。②上記文献の内容を踏まえて、東洋史学の方法論と研究史に関する自身の考えを論理的な文章として表現する能力を問う。</p>
〔３〕【西洋史学】	<p>（１）環境史研究の用語や概念に対する理解の正確性を問う。</p> <p>（２）設問１：古代西アジア・北アフリカ史の研究手法への理解と、自身の考えを論理的な文章として表現する能力を問う。設問２：西洋近現代における都市史の研究手法への理解と、自身の考えを論理的な文章として表現する能力を問う。</p>
〔４〕【先史学・考古学】	<p>（１）考古学に関する専門的知識を幅広く身につけているか否かを確認するため、景観考古学の先行研究に関する知識とその研究手法の理解を問う。</p> <p>（２）考古学に関する専門的知識を幅広く身につけているかを問うとともに、自身の見解にもとづき議論を展開させる能力、およびそれを論理的な文章で表現する能力を問う。</p>
〔５〕【民俗学】	<p>（１）民俗学の研究手法についての理解と、自身の考えを論理的な文章として表現する能力を問う。</p> <p>（２）民俗の変化に関する研究上の概念、視角や方法に対する理解の的確さを問う。</p>
〔６〕【文化人類学】	<p>（１）文化人類学の研究上の用語や概念に対する理解の正確性を幅広く問う。</p> <p>（２）小問１：文化人類学に関する英語の専門的な文献を的確に読解したうえで論理的な文章として表現する能力を問う。小問２：文化人類学の研究手法への理解と、自身の考えを論理的な文章として表現する能力を問う。</p>
	以上